



茶の味

## シネマの誘惑

連載エッセイ 87

### 信頼される通訳の条件

佐藤 友紀  
(フリーライター)

作品は何だったか正確には覚えていないが、ウォーレン・ベイティが来日して記者会見をやった時のこと。ある日本の女性記者が英語で質問した。もちろん、通訳付きの会見にもかかわらず、である。するとベイティ、「君の英語はよくわからない。通訳がいるんだから、ちゃんと日本語で質問してくれ」とキッパリ。うわあ、私だったらもう立ち直れないな、と心臓がドキドキしたのを思い出す。

言語学的に言っても、日本人と韓国人は他の国の人々に比べて、英語を話すのが大変なんだと聞いたことがある。ただの喋りならともかく、インタビューや会議となると、通訳の方のサポートは欠かせない。「もっと早くから勉強しておくんだっ！」と悔やむことは何百回とあったけど、自分の実力、つまり、どの程度しか話せないかは知っているのだから、配給会社の人が用意してくれる通訳の方の存在は本当に有難いと感謝してきた。ところがところが、明らか

に私以下の英語力なのに「通訳はいらない」と申告する同業者がいるのだ。海外の映画祭やプレス・ジャンケットでのグループインタビューは、確かに通訳付きで参加するジャーナリストはごく少数派だが、それにしても...

映画会社としても「出来る」と申告している人間に、「いや、あなたの英語力はそこまでいってないはずだ」とは言えないだろう。現実には、事前にノートに書いていた死ぬほど簡単な質問を読み上げる程度。それもせいぜい1回聞ければいいくらいで、これで「インタビュー記事」と書かれたら、読者の方もたまらないだろうなあ。

通訳という仕事は、特別な才能が必要なのは黒子のように目立たない存在である。それにフラストレーションを感じてしまうのか、時々、もっと大きな野心を持ってしまふ人もいけど、私を知る限り、あまりうまくいったという話がない。逆に、字幕翻訳家の戸田奈津子さん、戯曲の翻訳も多くて芝居をよく知っている鈴木小百合さんなどは、キチンとした基盤があるせいか、日本人、外国人の双方に評判がいい。「私が、私が」とガツガツしてないしね。

「マリには勇気づけられた。最初に通訳について、僕の『セント・エルモス・ファイアー』が大好きだと言って、全部の台詞をそらんじてくれたんだよ」と、ジョエル・シューマッカー監督の絶大な信頼を得ている竹内万理さん。聞いているこちらにもハッピーになった。

## シネマカルチャー

～女優編～  
「ラブドガン」の  
宮崎あおい

青山真治監督「ユリイカ」で一躍注目をあびた宮崎あおい。「ラブドガン」では、孤独感を身につけさせようと、渡辺謙作監督がスタッフに彼女と口をきくことと命令したとか。その甲斐あって、孤独な追いつめられた役を見事にこなしている。意志の強い目線とは逆に、気を抜いたらボキンと折れそうな儂げな姿がスクリーンに強烈な存在感を残している、さすが!!

## シネマ de クイズ

Q: スッコーンと突き抜けた面白さ、わくわくする演奏、山形弁がうれしくなる「スウィングガールズ」からの問題です。吹奏楽に必要なのは大きく強い肺活量。これを鍛えるためにガールズが使ったものは何だったでしょう。

答えが分かったら住所・氏名・最近観た映画の感想をお書きの上、フォーラムまでお送り下さい。正解者の中から抽選で5名様に映画招待券をプレゼント!尚、当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。締切は10/15です。

前回のクイズの答 ファイアボルト

「ヴァン・ヘルシング」の生(なま)ヒュー・ジャックマンに、ブロードウェイで会った! 現在ヒューは「ボーイ・フロム・オズ」に連日出演中で、会場ではしばしば女性ファンの黄色い声かきかき熱狂の渦。トニー賞の主演男優賞は当然の人気ぶり。バックステージでサインをもらおうと待っていたら現れたヒューは私の鼻先10cmの所で止まり、後ろから押されて身動きできなくなった。長身の彼の胸毛が目の前に! すばやく臭いをかいたらイイ香り。至福の3分間! カッコ良く車で走り去った後に残された私は、しばし茫然自失の状態...。濃く顔が小さかった! (E)

リレーエッセイ

採用させていただきます。お送りします。

## 期待の若手監督連続トークショー in フォーラム / 渡辺謙作監督 & タナダグコキ監督

10月2日(土)  
「ラブドガン」上映  
16:30~18:30  
トークショー  
18:40~20:00  
前売券1,000円  
(満席の場合は当日券はありません。)

71年福島出身。荒戸源次郎事務所、鈴木清順監督の「夢」に演出助手として参加。98年「プーピーの物語」で監督デビュー。「ラブドガン」は監督3作目で、かなり端正でこりまくりの映像の連続



渡辺謙作監督



タナダグコキ監督

突如現れた映画界の異端児! タナダグ監督は75年生まれ29才! 高校卒業後8ミリ映画を学び、26才で初監督作品「モル」でびあフィルムフェスティバルでグランプリ受賞。作品全体に溢れたパワー

10月16日(土)  
「タカダワタル的」上映  
18:30~19:35  
トークショー  
19:45~20:45  
前売券1,000円  
(満席の場合は当日券はありません。)



ラブドガン

で目が離せない。さすがに鈴木清順の元で修業した人、うならされる。拳銃、亀、車...小道具が映画記号として観客に提示される面白さにもドキドキ。これがオリジナル脚本というから相当にオモシロイ、実力派に間違いはない。ぜひ監督と共に謎ときの至福の時間を過ごしましょう。

とユーモアが絶賛された。「タカダワタル的」を演出するにあたり、高田渡を知らない自分と同世代の若者にどう伝えるかが大きなテーマだったと語る。フォーク界のカリスマ高田に150日間密着した音楽ドキュメンタリーは、どのように若い彼女によって料理されたのか興味津々です!

## フォーラム・シネマドセレクション 10/29(金)

「シークレット・ウィンドウ」公開記念! ジョニー・デップの魅力全開のオフ・ビートで切ない恋物語。

新作「シークレットウインドウ」では誰もみた事のないデップがみられると評判ですが、彼の奇跡的と絶賛された演技をみせる本作をこの機会に上映! 最高の感動をお贈りします。両親のいない兄妹。利発すぎて繊細すぎて神経を病んでしまった妹ジューンが、風変わりな青年サム(デップ)と恋をする。無口な彼はチャップリンやキートンに憧れ、得意の手法やパントマイムで気持ちを表現します。デップの数々の感動シーンが見物です。

### 妹の恋人



主演 ジョニー・デップ  
メアリー・ス・マスタートン  
エイダン・クイン/ジュリア・ノムア  
(1993/米/93分)

## ソラリス・クラシックスシアター

衝撃の176分! 永遠の名作が大スクリーンに

### ゴッドファーザー (1972/米)

<デジタル・リマスター版>  
監督 フランシス・F・コッポラ  
主演 マロン・ブランド/アル・パチーノ

往年の名画をソラリスの大スクリーンで楽しむ企画も好評のうちに7回目を迎え、新たなネーミングで恒例企画として続ける事になりました(感謝!) 本作は映画史に残る名作中の名作。21世紀の技術で映像も音響もクリアになって32年ぶりに甦える特別編集版でファン必見のお宝映画だ。M・ブランドの神話的演技と身震いするほどの究極のエンタティメント! さあ、あなたも素敵なオトナの時間へ。

11月5日(金)  
朝、夜2回  
前売券1,200円  
(当日券1,500円)  
(満席の場合は当日券はありません。)

田奈津子さん、トークと映画の夕べに行きました。戸田さんのお話、聞けて感激です。映画の裏側での苦労話、とてもリアルでした。情報化社会で、本当に便利な世の中になったけど、それが良い方ばかりじゃなく、それが悪い方じゃありません。「アウトサイド」ですもんね。「アウトサイド」でトムは、自立と自立とがなばつている気がしますが、それだけじゃなく、やっぱり光ってるんですよ! コッポラ監督すばらしい! 「ラテラル」、やっぱり早く観たいです。戸田さんには大変でしょうが、まだまだがんばってたくさん字幕つくって下さい。ありがとございませう。(河北町・奥山さん)

誰 も知らないをみました。絶賛された柳楽君! 決して同情や憐みを寄せつけない、強い瞳にすっきり捕らわれてしまいました。「大人」と呼ばれる人々でさえ、生きることが困難な今、生きる為、その理由や意味を探して多くの人々がさまよう現代に、ただ「生きる為」に生きる「子供」たちの姿は、もうそれだけで、今を生きている私達のエールのようにも思えました。この4人の兄妹は映像の中で、確かに「生きて」いました。その事を思い出すだけで、私も生きる勇気がわいてくるのです。悲しいだけじゃない、苦しいだけじゃない、誰も知らない「けれど誰かが知っていた確かなものが、画面一杯に溢れていました。そして私は今も、この映画に、兄妹に出会えた幸せをかみしめています。(山形市・姉崎さん)

## 銀幕通信

原稿募集  
採用させていただきます。お送りします。

母と2人で「カレンダールの祖母」をみました。私の女性達の元氣と勇気がとても素敵。誰にも止められない勢いの妻たちを心密かに応援しつつ寄り添う旦那様達もゴッドです。イギリスの風景、イギリス英語も、見て聞けて楽しかった。ヒマワリのような明るい心になれる映画でした。(山形市・原田さん)